



日本の農業を切り拓く、農業経営者へ。

日本農業経営大学校

講義の様子

1年生の通常講義では、経営力領域「経営者としてのリーダーシップ」「情報戦略の理論と実践」「ナレッジマネジメント」、人間力領域「経営者のための英語力」、体育的活動「ダンス」がそれぞれ終了しました。この中から今回は2つの講義に注目したいと思います。

● 「経営者のためのリーダーシップ」

この講義の最終課題では「事業趣意書」の提出があり、この日は学生たちがその内容を発表しました。この「事業趣意書」は、卒業後、農業経営を行うにあつたつての問題意識を整理し、新しく立ち上げる事業の目的、具体案、将来展望などを考え、ゼミ教員の指導も受けながら練ってきました。自分自身と向き合い、頭のなかで思い描いていることをいざ文章に落とし込んでみると、なかなかうまく表現できないものです。毎年のことですが、進級前に学生たちが大いに悩み、苦勞する講義の一つでもあります。

当日は、講師を務める松下政経塾顧問古山和宏さんだけでなく、教職員も学生の発表を聞き、質問やコメントをしました。2年生になると経営計画の策定に向けて本格的に走り出します。この「事業趣意書」が大切な土台となるため、講師、教

職員のアドバイスを踏まえてブラッシュアップを進めてもらいたいと思います。

● 「情報戦略の理論と実践」

この講義では、グループワークを通じた発表がありました。このグループワークでは同じグループ内の学生の意見もまとめていく作業が伴います。そのため、「グループワークという場をどうマネジメントしていくのか」という観点からも学びを得たようです。

特別講義の様子

普段は学生の関心や社会の動向に合わせて教職員で講師を選定しますが、数回程度、学生からのリクエストにより講師を選定する講義があります。これを特別講義と呼んでいます。これも学生との距離が近い当校ならではの取り組みの一つです。

今回は学年別で実施し、1年生は3月6日に株式会社カヤック 代表取締役CEO 柳澤大輔さん、3月7日に慶應義塾大学大学院 特任准教授 若新雄純さんをお招きし、2年生は3月6日に産経新聞社論説委員 河合雅司さんをお招きました。河合さんが執筆された『未来の年表ー人口減少日本でこれから起きることー』講談社現代新書、2017年6月）はベストセラーとなり、メディアなどでも話題となりました。学生がこの本を読み、河合さんに

お願いしたという経緯です。農業経営者にとって常日頃からアンテナを高く張り、社会の動向を分析することが重要となります。2年生にとつては卒業前の最後の講義となりましたが、それにふさわしい内容だったのでないでしょうか。

講話：就農への心得

3月19日、堀口校長や全国農業会議所の方から1年生に向けて就農の心構えに関する話がありました。本校の学生の就農パターンは、親元就農、独立就農、雇用就農と多様です。例えば、親元就農の場合は事業承継、独立就農の場合は農地や住宅など経営資源の確保、雇用就農の場合は自分の将来像とマッチした就職先の確保など、この2年間は就農準備も行う大切な時間です。

この日をもつて2017年度の全ての講義が終了しましたが、1年生には余裕をもつて就農準備を行ってもらいたいと考え、春休み前にこのような機会を設けました。普段、東京で学生生活を送っていると、なかなか就農準備に時間を割けないのも事実です。この貴重な春休みを有意義に使用してもらいたいと思います。

卒業式の様子

※本誌の無断転用・転載を禁止します。

[発行人] 一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン

〒108-0075 東京都港区港南2-10-13 農林中央金庫品川研修センター5階

TEL：03-5781-3750 FAX：03-5781-3752



日本農業経営大学校

Japan Institute of Agricultural Management



日本の農業を切り拓く、農業経営者へ。

日本農業経営大学校



△答辞を述べる卒業生

3月8日、4期生の卒業式が行われました。来賓として農林水産省政務官や本校同窓会会長をはじめ、当法人の理事、学校運営を支えてくださっている審議委員、講師、実習受け入れ先など多数の方々にご参列いただき、その後の懇親会も含めて無事に終えることができました。

どの学生も「あつという間の2年間だった」と振り返ります。中身の濃い2年間だったということでしょう。時代をリードする経営者や研究者からの講義、農業・企業実習など自らの価値観が揺さぶられるよう



△ご来賓の皆さまや当法人理事長等と卒業生による卒業写真

な出会い、そして2年間苦楽を共にした仲間たちはこれから就農するにあたっての大きな財産となります。

浦野理事長が卒業生に送った「学び続けることの大切さ」「謙虚さ」という言葉を胸に、地域農業を支え、日本農業を牽引する農業経営者を目指して一歩一歩進んでもいただきたいと教職員一同願っています。



日本農業経営大学校

Japan Institute of Agricultural Management

※本誌の無断転用・転載を禁止します。

[発行人] 一般社団法人アグリフューチャージャパン

〒108-0075 東京都港区港南 2-10-13 農林中央金庫品川研修センター 5階

TEL : 03-5781-3750 FAX : 03-5781-3752